

災害対応歯科学実習（二瓶智太郎）

Training of Disaster Dental Treatment (Tomotaro Nihei)

キーワード

- ① 災害医療歯科学
- ② 災害歯科
- ③ フェーズ1-3
- ④ 災害歯科治療
- ⑤ 地域連携

授業概要

災害時における対応は、各フェーズごとに対応内容が異なり、さらに実践力が必要である。本実習ではフェーズ2に必要な事項として一般歯科治療学的な実践力を身につけると同時に課題を抽出し、課題解決に向けた方法論として、補綴材料学の取り扱いと計測方法を学ぶ。特に、即時義歯の作製法の理論と実践を身につけると同時に抗菌材料の取り扱いを身につける。さらに、本学で開発したセルフクリーニングデンチャーの理論と現状を題材とした研究計画の立案実習を行う。

授業科目の学修目標

災害発生後、フェーズ1から3で、それぞれ歯科治療のニーズが異なる。そこで、その状況に応じた歯科治療について実習を通じて身につけることを目標とする。

授業計画

- ① 災害歯科治療学的研究計画立案実習 12コマ
実習を通じて、問題発見能力を育成すると同時に研究計画の立案の基本を教授する。
- ② 即時義歯実習 12コマ
災害時に必要とされる即時義歯の理論と実際を実習を通じて教授する。
- ③ 災害時保存治療実習 12コマ
災害時に行われる保存治療を実習を通じて教授する。
- ④ 災害時小児歯科実習 12コマ
災害時に必要とされる小児歯科の理論と実際を実習を通じて教授する。
- ⑤ フィールドワーク 12コマ
被災地での歯科治療についてフィールドワークを通じて調査を行う。

実習担当教員 二瓶智太郎 星憲幸

教科書および参考書

災害時の歯科保健医療対策 中久木康一編集

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

関連する事項については教科書を熟読すること。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 問題を発見し研究計画の立案ができる。
- ② 災害時の即時義歯の作製ができる。
- ③ 災害時の保存治療が実践できる。
- ④ 災害時の小児歯科治療が実践できる。
- ⑤ フィールドワークを通じて、災害時の状況を理解できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
0%	0%	0%	10%	0%	0%	90%	0%

評価の要点

- ・成果発表は、フィールドワークで行った調査を発表する。10%
- ・実習についてOSCE形式で評価する。態度30%、技能30%、知識30%

理想的な達成レベルの目安

総合成績が60%以上を求める。